

2018.

10.19 [金]

13:00-17:00

参加費無料

無料託児あり

多様性が拓く コミュニケーション社会 シンポジウム

津田塾大学は、平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(代表機関 電気通信大学)にNTT先端技術総合研究所と共に連携機関としてプロジェクトを推進しています。その一環として、機関横断型の連携研究プロジェクトを立ち上げ進めています。本シンポジウムでは、その一つである「多言語・異文化コラボレーション支援」プロジェクトの報告とともに、今後益々重要性を増すと思われる多様性に焦点を当て、「多様性が拓くコミュニケーション社会」について議論したいと考えています。

[プログラム]

2018年10月19日(金)

- 13:00 開会の挨拶 高橋裕子(津田塾大学学長)
- 13:05 主旨説明 小舘亮之(津田塾大学女性研究者支援センター長)
- 13:15 **プロジェクト講演**
「訪日外国人対応のための
多言語コミュニケーション支援」
稲葉利江子(津田塾大学)
山下直美(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
- 14:15 **招待講演**
「子どもたちが繋ぐ異文化コラボレーション」
石田亨(京都大学) / 森由美子(NPOバンゲア)
- 15:30 休憩
- 15:45 **パネルディスカッション**
「女性研究者が切り拓く
豊かなコミュニケーション社会」
パネリスト: 安岡美佳(デンマーク工科大学)
饗庭絵里子(電気通信大学)
山下直美(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
司会: 稲葉利江子(津田塾大学)
- 17:00 閉会の挨拶 由良憲二
(電気通信大学副学長/男女共同参画・ダイバーシティ戦略室長)
- 17:20-19:20 情報交換会 [参加費 1,000円]

[アクセス]

津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス SA302

- ▶JR 総武線・中央線 千駄ヶ谷駅下車、徒歩約1分
- ▶都営地下鉄大江戸線 国立競技場駅下車、A4出口より徒歩約1分
- ▶東京メトロ副都心線 北参道駅下車、徒歩約10分

[お申し込み方法]

右記申し込みフォームに
必要事項をご記入の上、送信下さい。
<https://goo.gl/forms/7tbUvvMTyxD4stI42>



【託児所のお申し込み】 事前申込制 10/10(水)〆切

[お問い合わせ]

津田塾大学女性研究者支援センター
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 [TEL] 042-342-5142
[E-Mail] jks.jim@tsuda.ac.jp [URL] <http://cwr.tsuda.ac.jp>

【主催】 津田塾大学 / 電気通信大学
NTT先端技術総合研究所



津田塾大学
TSUDA UNIVERSITY



招待講演者



石田 亨 Toru Ishida

京都大学 教授

1978年京都大学大学院情報工学専攻修士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。1993年より京都大学教授。情報学研究科社会情報学専攻や京都大学デザインスクールなど、分野横断型の教育組織の創設に貢献。この間、ミュンヘン工科大学、パリ第六大学、メリーランド大学、上海交通大学、清華大学などの客員教授、日本学術会議会員などを経験。電子情報通信学会、情報処理学会、IEEE各フェロー。研究活動では、人工知能、特にマルチエージェントシステムの立ち上げに尽力。トップカンファレンスAAMASの第一回大会委員長を務める。その後、デジタルシティ、言語グリッド、異文化コラボレーションなど情報技術と社会をつなぐ研究プロジェクトを推進。人工知能学会業績賞、電子情報通信学会功績賞、文部科学大臣表彰(科学技術分野)など受賞。



森 由美子 Yumiko Mori

NPOパンゲア 理事長

Saint Mary's College, California卒業。児童心理学・幼児教育学を専攻。カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)に入学し比較教育を専攻、中退。玩具メーカーのトミー(現在のタカラトミー)に入社。幼児玩具開発事業室室長を務め、国内外の玩具賞を受賞。独立後、会社設立し、MITメディアラボにおいてVisiting Scientist。2001年に株式会社CSKのCAMP(Children's Art Museum & Park)のExecutive Producer。2003年のNPO法人パンゲア設立当初から現在まで理事長。2004年には文部科学省初等中等教育局 国際理解・教育諮問委員会諮問委員を務める。2005年日経ウーマンオブザイヤー 2006(キャリアクリエイティブ部門)受賞。子ども達が国境を超えてコミュニケーションを円滑に図るための使い勝手の良い子ども向けICT異文化コラボレーションのコンテンツを企画・開発を自ら行い、世界の子ども達のユニバーサルプレイグラウンドを創りだす。

パネリスト



安岡美佳 Mika Yasuoka

デンマーク工科大学 リサーチアソシエイト

コンピュータサイエンス Ph.D.デンマーク工科大学管理工学(Technical University of Denmark, Management Engineering)リサーチアソシエイト、国際大学GLOCOM客員研究員、JETROコペンハーゲン・コンサルタント。京都大学大学院情報学研究科修士、東京大学工学系先端学際工学専攻を経て、2009年にコペンハーゲンIT大学博士取得。専門分野は、Human Computer Interaction、Computer Supported Cooperative Workおよび情報システムデザイン。北欧におけるITシステム構築手法としての参加型デザインやリビングラボの理論と実践、それら手法の社会文化的影響に関心を持つ。近年では、IoTやコンピュータシステムが人々のより良い生活にどのように貢献できるかといった社会課題の解決に、参加型デザインやリビングラボの知見を応用するプロジェクトに取り組んでいる。

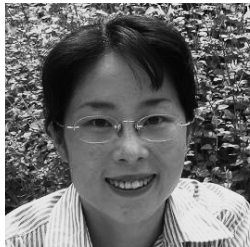


饗庭絵里子 Eriko Aiba

電気通信大学 助教

5歳よりピアノを始める。同志社高等学校を経て、京都市立芸術大学音楽学部器楽専攻(ピアノ)卒業。1993および1999年、滋賀県ピアノコンクール第2位。2004年、滋賀県新人演奏会ピアノ部門優秀賞、全部門最優秀新人賞および県文化奨励賞受賞。演奏活動を行う中で音や音楽の聞こえに興味を持ち、聴覚心理分野の研究で京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士(前期)課程および同大学大学院博士(後期)課程を修了。博士(音楽学)。関西学院大学 理工学部 博士研究員として感性情報学分野の研究室において音質や和音の印象に関する感性評価等、初めて理系分野の研究に従事する。その後、産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 学振PDを経て、現在、電気通信大学 大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 助教。聴覚心理学、音楽心理学ならびに演奏にかかわる認知科学の研究に従事している。また、国内あるいは国際会議等のバンケットで演奏活動を行っている。

プロジェクト講演者



山下直美 Naomi Yamashita

NTTコミュニケーション科学基礎研究所
主任研究員/特別研究員

2001年、京都大学情報学研究科数理工学修士課程修了。同年にNTT入社。コミュニケーション科学基礎研究所に配属。現在、同研究所の主任研究員/特別研究員。2006年、京都大学情報学研究科社会情報学専攻博士後期課程修了。博士(情報学)。長尾真記念特別賞、情報処理学会論文賞、山下記念研究賞、ACM Recognition of Service Awardなど受賞。社会が抱える問題(グローバル化に伴う言語・文化摩擦の問題やメンタルヘルスに関する問題など)を解決するための情報技術の研究開発に従事。



稲葉利江子 Rieko Inaba

津田塾大学 准教授

グローバル化に伴う多言語・異文化間コラボレーションの問題や、教育現場でのコミュニケーションの問題などに対して情報技術を用いた解決を目指し研究開発を行っている。日本女子大学理学研究科博士課程修了。博士(理学)。文部科学省メディア教育開発センター助手。文部科学省在外研究員制度にて渡米・渡欧し、米国・マサチューセッツ工科大学客員研究員、ベルギー・ルーベンカトリック大学客員研究員。独立行政法人情報通信研究機構 専攻研究員、京都大学情報学研究科特定講師、津田塾大学学芸学部特任准教授を経て現職。